

3年社会(歴史)第6回

自由と民権を求めて

～近代国家への歩み～

～授業の準備～

必要に応じてノートを取り、自分の考えを書いたり、教科書にマーカーをしたりしながら進めると良いでしょう。スライド中の**赤文字**は特に重要な語句です。最後の方にノート(板書)例もあります。

次のものを用意しましょう。(すべて歴史)

教科書 **資料集** **ノート**(昨年度の続き)

筆記用具(色ペンやマーカー含む)

～前回の復習～

前回は、新政府の外交と国境の画定について学習しました。その中で、朝鮮をめぐる議論で新政府内の対立が大きくなったのを覚えていますか？

- 朝鮮を武力で征服すべきだという考え方を何という？
- この論争に敗れ、政府を去った人物は？

征韓論をめぐる対立に敗れ、参議(政治に参加する重要な役人)を辞めて政府を去ったのは、西郷隆盛や板垣退助です。他にも連れ立ってたくさんの方が辞職しています。

この人たちは政府を抜けた後、どうなったのでしょうか？何か行動を起こしたのか、そのまま消えていったのか……。それでは学習課題です。

<学習課題>

政府を去った人々は、どのような活動を展開したのだろうか？

Q. あなたはどう思いますか？

1. 武力で政府に訴えた。
2. 武力を用いない形で政府に訴えた。
3. あきらめて特に何もしなかった。

自分たちの意見が通らなかった人々の思いとは・・・

1. 武力で政府に訴えた。

新政府に不満を持つ各地の士族には、政府に対して反乱を起こす人々もいました。そして、最大にして最後の士族反乱となったのが、

1877年 **西南戦争**です。

(資料集P124下、参照)

舞台は鹿児島。約4万人の士族が立ち上がりました。この時、そのリーダーに担ぎ上げられたのが西郷隆盛です。

しかし、反乱は、徴兵令で組織された軍隊によって鎮圧されました。

そうなることは西郷もわかっていたのかもしれませんが。

戦いの中で、西郷も自刃によって最期を迎えました。

2. 武力を用いない形で政府に訴えた。

西郷とは違う形で活動を続けたのが板垣退助です。彼は、薩長中心の藩閥政治や、大久保利通中心の専制政治に不満を募らせていました。(板垣は坂本龍馬と同じ土佐出身)

西南戦争より時を少しさかのぼりますが・・・

板垣らは、1874年に**民撰議院設立建白書**を政府に提出します。

民撰議院設立建白書

- 民撰＝人民（国民）が選ぶ
- 議院＝議會（国会）
- 「建白」とは、政府や目上の人に意見を申し立てること。

つまり、国民が選んだ代表が作る国会を開こうというもの。

＝自由民権運動の始まり

（人は皆自由で平等→政治参加を！）

自由民権運動

- 教科書P172参照
- 初めは士族中心の運動
- 徐々に豪農(有力農民)や商工業者も参加
- やがて全国的な運動に発展
(各地で演説会、新聞・雑誌に記事)

1880年 **国会期成同盟**の結成*
→政府に国会開設を要求

* 期成とは何かの実現を目指すこと

そんな中・・・事件が・・・

1881年 開拓使払い下げ事件

→ 政府が、北海道の官営工場や鉱山を政府と関係の深い大商人に安く払い下げようとした。*

→ 自由民権運動を進める人々(=民権派)が激しく政府を批判

「こんなことになるから国会が必要なのだ！」

*「払い下げる」とは、政府などが所有するものを民間に売り渡すこと。民間に安く売る・・・殖産興業の所で行われてきましたね。

国会開設へ

この出来事がきっかけとなり、ついに政府は
国会開設の勅諭を出し、*

- ・10年後に国会を開くこと
 - ・憲法を作ること
- を約束しました。

*「勅諭^(ちよくゆ)」の「勅」には、天皇の命令という意味があります。

政党の結成

民権派の人々は、国会開設に向けて政党を結成しました。政党は、政治に対して似た考えや目的を持つ人々のグループです。

例

- 1881年 **自由党**の結成(板垣退助)
- 1882年 **立憲改進黨**の結成(**大隈重信**)

憲法草案

国会開設に向け、憲法を作ろうという動きも盛んになりました。資料集P125D私擬憲法に憲法案の例が2つ載っているので見てください。

憲法：その国の政治の在り方を定めた最高法規

Q. 民権派の人々は、どんな国づくりを目指したのだろうか？（憲法案から）

運動の衰え

政府は国会開設を約束した一方で、演説会などの政治集会や新聞での言論活動を、警察の力を使うなどして厳しく取り締まりました。西洋的な「自由」への危険視や、国民たちに「自由」はまだ早いという考えが政府内にはあったようです。

また、民権派の影響を受けた農民たちの中には、暴動を起こす人々も現れました。(秩父事件など)

教科書P173、資料集P125E参照

そうして自由民権運動は次第に衰えていきました。

今回は自由民権運動を中心に学習しました。
最後に改めて考えてみてください。

Q. 民権派の人々は、なぜそんなに国会を開きたかったのでしょうか？

(次回はいよいよ憲法発布や国会開設についてです。)

～ノート(板書)例～

[自由と民権を求めて]

政府を去った人々は、どのような活動を展開したのだろうか？

征韓論の論争に敗れた人々

・西郷隆盛 → 士族反乱へ

1877年 西南戦争

・板垣退助 → 自由民権運動へ

1874年 民撰議院設立建白書 提出
= 国民が選んだ代表の議会

1880年 国会期成同盟 結成

1881年 政府: 国会開設の勅諭

- ・10年後に国会を開く
- ・憲法を作る

<政党の結成>

- ・1881年 自由党の結成(板垣退助)
- ・1882年 立憲改進黨の結成(大隈重信)

民間でも憲法草案を作成
Q. 民権派の人々は、どんな国づくりを目指したのだろうか？(憲法案から)

しかし、

- ・政府の厳しい取り締まり
- ・農民などの暴徒化(秩父事件など)

→ 自由民権運動の衰え

～終わりに～

＜学習課題＞

政府を去った人々は、どのような活動を展開したのだろうか？

それでは、改めて学習したことを振り返り、学習課題に対するまとめを書いてみましょう。

なお、今回扱ったのは教科書P172～173及び資料集P124・125の内容です。